

平成 26 年度 第 1 回神戸市体罰を許さない学校づくり検討委員会要旨

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 1 日（火）10：00～12：00
- 2 場 所 神戸市役所 4 号館 1 階本部員会議室
- 3 次 第
 - (1) 指導部長あいさつ
 - (2) 委員紹介
 - (3) 委員長あいさつ
 - (4) 事務局より「平成 25 年度の取組及び本市の状況について」
 - (5) 学校より報告
 - ①小学校での取組
 - ②中学校での取組
 - (6) 体罰根絶に向けた取組について
 - (7) 社会教育部長あいさつ

4 主な発言内容

<平成 25 年度の取組及び本市の状況について事務局から説明>

- ・リーフレット、学校への意見書を作成し周知
- ・校内研修資料の作成と各種研修の実施（事務局主催研修、臨時校園長会等）
- ・各種会合での指導、啓発（定例校長会等での周知）
- ・相談体制の整備（いじめ・体罰ホットラインの設置、HP、学校便り等で周知）
- ・教職員による事故報告について（24 年度、25 年度）

<小学校からの報告>

- ・「笑育」の推奨
 - ①子供の言葉の変換
 - ②「千手の必笑」あの手この手で
 - ③ルール・マナーの伝え方、子供が興味を引くような標語
- ・職員研修
 - ①児童理解のためのロールプレイ
 - ②リーフレット、意見書を活用した校内研修の実施
 - ③生徒指導担当教員を対象とした指導法研修会に基づく校内研修の実施（アンガーマネジメント）

<中学校からの報告>

- ・生徒への関わり
 - ①生徒のそばに教員がいる体制
 - ②普段の声かけや対話の重視
- ・体罰根絶に向けての取組
 - ①部活動顧問同士の対話、研修
 - ②部活動保護者会の実施
 - ③叱り方指導、パーソナルスペースの周知、声のかけ方等の研修

○子供には、ある程度厳しく指導をしてもらわないと真っ直ぐ育たない。中学時にあまりに優しく指導を受けていると、打たれ弱くなり、社会に出た時に、戸惑い落ち込むことも多い。

○厳しさをどう教えていくか、どう子供たちに分からせていくかが大切であるが、それを体罰に代えてしまうことが問題である。

○24 年度以降の取組の成果が上がっていると思う。本校でも今日提示されていたリーフレットや意見書を研修に活用した。それ以外にも、事務局から出されている資料等を活用し、各校で研修を実施しているところが大きな要因である。相談窓口として「いじめ・体罰ホットライン」の紹介があったが、小学校にもスクールカウンセラーが配置されており、カウンセラーと子供や保護者

が気軽に話ができるよう心がけており、大事に至る前に話ができるような体制づくりを進めている。体罰を意識するあまり、先生たちの指導が畏縮しないようにしないといけない。やはり毅然とした態度で指導すべきことは指導しなければならないが、ただ手法を勘違いしないよう、何度も研修を繰り返す必要がある。子供との信頼関係、距離を詰める時にどういう手法でその子供と関わっていくか、みんなで考えながら取り組んでいかなければならない。

○昨年度1年間の取組により、全体的には、体罰根絶に向けての意識は高まったと思う。ただ、この1年間、現場の先生方はすごく悩まれていたと思う。教職員間のパートナーシップが一番大事。本会議も2年目に入り、先生方に本当に体罰はダメとわかってもらうために、どのような資料を用意すればよいのかという視点を学校現場の先生から教えてほしい。「体罰は少しは必要だ」という意識を持っている先生がいれば、そこは、変えていかなければならない。

<平成26年度、体罰根絶に向けた取組について事務局から説明>

- ・ 検討委員会の継続開催
- ・ 各種研修会の実施
 - ①部活動担当者等への研修
 - ②区域別人権教育推進協議会における研修
 - ③事務局からの配付資料による校内研修
 - ④初任者研修、経験者研修等における研修 他
- ・ 各種会合における周知徹底 ・ ・ ・各校種校長会等での周知
- ・ 相談窓口の周知徹底 ・ ・ ・「いじめ・体罰ホットライン」等の周知
- ・ リーフレットの活用

○普段は建築の設計デザインをして、物づくりに関わっている。自分が常に心がけているのは、常に気持ちをニュートラルにしておくこと。そうすることで、お客さんとの意見交換もできるし、時間を置くこともできる。現場で働いている職人さんの環境作り、雰囲気作りはとても大切。環境づくりをすることで、デザイン以上のものができると思う。現場に行くと、今回、いきいきしたものができたなどと思うことがある。現場での環境づくりというのは、教育や学校の中でも大切だと改めて思った。私の仕事と通ずるものがあつた。

○先生たちの努力が保護者・地域に浸透していない感じがする。地域で子供たちを見守るときに、けがをしてほしくないから、乱暴な言葉も出てしまう。子供たちがなぜ言われたか、怒られたのか、分かる様な教え方、自分が悪いことをしたから怒られたということを理解させることが必要。キーワードは「けじめ・しつけ」。

○娘の中学時代に部活動の顧問の指導が感情的で、気分によって言動が左右されていたように思う。今は高校生で、成長できた面もあるが、人の顔色を見て話をするという一面もある。PTAとして高校でもしっかり話をしていきたい。このリーフレットはわかりやすい。

○自分も中学のころは陸上部で、部活動に励んでいた。顧問は厳しい先生で、アメとムチの使い方が上手だったと今は思う。自分も、勝ちたいという強い気持ちがあつたから頑張つてこられたと思う。わが子にも時間や約束を守ることを厳しく言っているが、それは部活で学んだことだと思う。ある程度の厳しさはやはり必要だと思う。中学校は人間形成の上で大事な時期、難しい時期だと思うがアメばかりではなく、厳しさも忘れず指導してほしい。

○児童生徒を理解しようとする気持ちが大切である。子供は今どうなのか、子供理解を日頃から習慣づけられたら、体罰はなくなると思う。

○高校体育連盟でも体罰禁止の話がでた。リーフレットの件であるが、アンガーマネジメントについて解説してもらえると、教員は分かりやすい。特別な支援に基づく配慮の有効性を内容に加えてほしい。

○たくさんの研修資料が配られてくるが、どこが重要なのかというポイントを明らかにして職員に提示することが重要。生徒指導の場面、部活動の場面、子供に自分の言うことを分からせたいと

いう思いがあり、伝わらないことへの苛立ちが見られる。大きい声を出せばよいのではなく、理路整然と大人として話していくことが厳しい指導。「丁寧に」をキーワードとしている。子供にも保護者にも丁寧に言葉を使って話をするのが大切である。

- リーフレットはよくできており、活用している。問題行動、問題行為の背景を先生が知る、「知った上で指導する」という部分を伝えてほしい。「児童生徒の実態は把握できていますか」がそれに当たるとは思うが、子供たちにもいろいろ特性がある。日頃からその面も探っていくことも未然防止の大きな手立てになると思う。
- このリーフレットには、「体罰は許されない」ということが十分理解できる内容が盛り込まれている。具体的な方策の部分があれば、現場の先生もやってみようかという気になる。自分を落ち着かせたり、ワントーン声を下げたりするだけで違ってることなども加えられたらいい。
- 体罰が黙認されていた時代があった。いろんな理屈で教員が体罰をしてしまう心理状況になっていた。体罰をなくすためには、「体罰は犯罪である」という言い方が、一番わかりやすいのではないか。
- 新たにリーフレットを作成し発信していくことが必要である。そのリーフレットに関しては、昨年度作成のリーフレットに今年度の委員の意見やキーワードを加え、事務局でまとめ作成配付する方向で考える。体罰の根絶に向けて、この検討委員会から継続してメッセージを発信していかなければならない。